




## ■「岡崎嘉平太の記念館を訪ねる旅」報告

開催日：令和元年 10月 9日(水) 7:30～18:30

行程 7:30(高槻市役所出発)⇒⇒11:00(吉備プラザで食事) 11:45(岡崎嘉平太記念館)⇒  
⇒13:40(山田方谷記念館)⇒⇒18:30(高槻市役所到着)

10/9(水)秋たけなわの好季節、折から晴天の中、新名神高速道路を一路豪華北港観光バスにて岡山県吉備中央町所在の「岡崎嘉平太の記念館を訪ねる旅」を堪能。参加者は学ぶ会の角芳春代表や吉田利幸前府議をはじめ優秀な皆様方 22名、当地においては日中LT貿易の高碓翁亡き後の後継者として日本側窓口として活躍された岡崎氏(1897-1989)の功績や記念館の運営方法について館長や学芸員の皆様方との熱心な質疑応答がありました。



続く訪問先の「山田方谷記念館」(岡山県高梁市)においては幕末動乱期に備中松山藩の財政、教育を初めとした藩政立て直しに尽力し天才ぶりを発揮しつつも全国的にはほぼ無名に等しい山田方谷翁の地元での取り扱われ方、また記念館運営について多くを学びました。(編集部宮本)

## 【我が会員甘田外成さんの投稿記事】

「高碓達之助の偉業に学ぶ高槻市民の会」の研修会として、二十数名が岡山県高梁市を訪ねた。日中国交の高碓の日本側パートナー(後継者)としての岡崎嘉平太(元・全日空社長)の郷土記念館見学がメインであったが、そのあとに尋ねた「山田方谷記念館」に強い印象を持った

◆幕末の偉人・山田方谷の名前は知っていたが、実際の業績についての学習は初めてである。早世した両親の教育のお陰もあり、神童の名の通りであり、儒学(陽明学)を志した。後に、備中松山藩の藩政改革を実行し、藩主の教育係でもあった。老中・板倉勝静藩主の出府に伴い、江戸詰めともなり、幕末動乱の政治にも関与した人物。あの「王政復古」の原案を作った人。明治10年に72歳で没したが、人材教育への傾注は強く、岡山の有名な藩校・閑谷学校の興隆にも尽力したスーパーマン。◆なんと記念館の入り口には、NHK大河ドラマ「山田方谷」への署名要請も備えてあった。郷土の人たちからの「山田方谷」への熱烈な思いを感じた。館長は方谷の五代目の子孫。◆手前味噌ともなるが、わが社祖の高碓達之助も激動の昭和の偉人として、NHK大河ドラマに登場してもらいたいとの後輩としての切なる思いがある。人間愛溢れる数々の逸話があり、ドラマ性は十分であるが、残念ながら「恋愛」の篇ではなかなかお目にかかれないことがネックなのであろうか。また、大阪府や高槻市といった大都会での郷土愛の高まりといったことも、今の時代にはなかなか難しいのかもしれない。⇒

⇒◆「岡崎嘉平太」「山田方谷」「高碓達之助」と並べたが、いずれも「凄」に尽きる人たちである。大河ドラマは別としても。先人たちのあの「気概」を我々昭和後半時代の人間は失ってはならないのであるが、「平成」「令和」の時代の移り変わりの実相も、冷静に観察していくべくこととなる。



## ■第三週例会で“我が人生”の話あり (FACEBOOKに掲載)

10/21(月)Pm2:00～の定例会においては45年もの長きにわたり高槻の街のシンボルであり、市民の誇りでもあった西武高槻店がこの10/5をもち阪急高槻店へと模様替えされたのを期に私自ら拙い職歴で烏滸がましい限りではありますが「高槻の流通史、流通裏事情」を通じて街の来し方行く末の私見を語らせていただきました。(宮本)

## 【例会お知らせ】

- 11/4(月)カフェ形式「高碓達之助の孫弟子としての企業人生のよもやま話」  
東洋製罐元専務：甘田外成
- 11/18(月)講演「軍歌史」  
\*日本人の忘れてはならない精神を語ります。 三輪廣司会員